

平成25年
6月1日号に、現
在の形となるデザ
インにリニューアル
しました。



平成23年5月1日号
150号 高齢化が深刻、地域
で支援事業が進む

表紙は、現在のえな笠置山栗園で行われた植樹祭。今では6,500本のクリが植樹され、秋には収穫祭でにぎわいます。特集では地域や市が取り組んでいる高齢者支援策を取り上げました。この年の3月11日に発生した東日本大震災後の市の支援状況もお知らせしました。



平成25年7月1日号
200号 リニアまちづくり
構想を中間報告

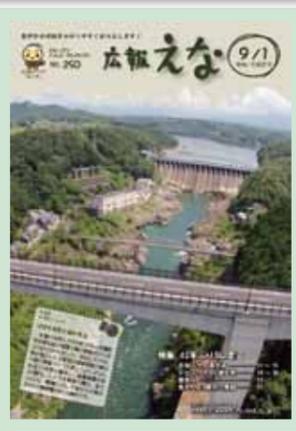
表紙は、「日本大正村バラ祭」できれいに咲き誇るバラと、矢がすり姿の女性が飾りました。夏のイベント特集として、各地域で開催される夏祭りや花火大会を案内しました。リニア中央新幹線の開業を生かしたまちづくりの構想について、取り組み方針などを中間報告として紹介しました。

平成26年11
月15日号から表紙
にエーナが登場し
たんだナ!



市公式キャラクター『エーナ』

**300号
本号** 300号を迎えた
広報えな。市民
の皆さんにより身近に読ん
でいただけるよう、リニュー
アルを目指します。詳しく
は次ページをご覧ください。



平成27年9月1日号
250号 リニア開通を見据え
SL復元を研究

この年の8月、東雲大橋が開通し、空撮による写真を表紙に掲載しました。明知鉄道明智駅と日本大正村広場で行われた「あけてつSLフェスタ」を特集。42年ぶりに試験走行したSLを大きく取り上げ、参加者の感想や、SLの復元に取り組む方々を紹介しました。

「広報えな」が創刊から300号を迎えました

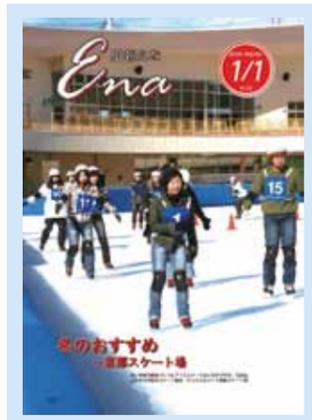
平成16年10月25日、市町村合併により新生「恵那市」が誕生しました。あれから13年が経過しました。市民の皆さんに市の情報をお伝えする広報えなも恵那市と共に歩み、広報えな創刊号（平成16年11月1日発行）から数え、300号を迎えました。

これまでの広報えなの歩みを紹介し、その時々のお出来事などを振り返ります。そして、もっと市民の皆さんに身近で親しまれる広報紙を目指し、新しく生まれ変わる広報えなについてお知らせします。
□問い合わせ 総務課 ☎26-2111 (内線322)



平成16年11月1日号
創刊号 新生「恵那市」
スタート

記念すべき表紙は、恵那市誕生の日に市内の産婦人科で産声を上げた、長谷川青紀くんと、お母さんのちとせさん。特集では新恵那市誕生の一日を追いました。へぼでまちおこしに取り組む串原の三宅尚巳さん（当時79歳）が、輝く恵那人第1号を飾りました。

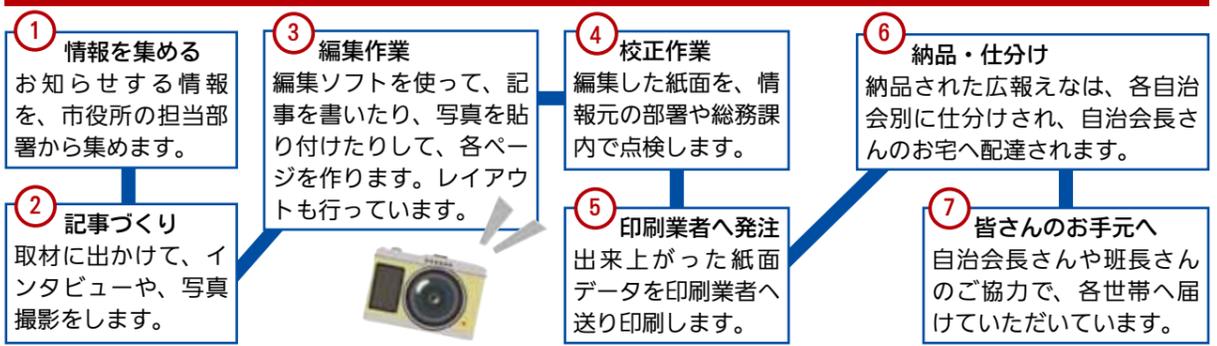


平成19年1月1日号
50号 郷土の誇り、
先人顕彰事業が盛ん

表紙は、恵那スケート場で滑走する上矢作中学校生徒を掲載。特集では中山道広重美術館開館5周年記念の企画展に合わせて、明智町出身の画家山本芳翠の紹介と、岩村町出身の女子教育の先駆者下田歌子をたたえる、下田歌子賞の受賞作品を紹介しました。

平成19年
5月1日号から、
デザインや紙質が
新しく変わ
りました。

広報えなが皆さんのお手元に届くまで



※広報えなは公共施設や、一部の店舗などでも入手できます

平成21年6月1日号に、2回目のデザイン変更。表紙の題字がひらがなの「えな」になりました。



平成21年3月1日号
100号 こども園の管理運営
に指定管理者制度

表紙は、豆まきで鬼を追い払うやまびこ保育園（当時）の園児たちが飾りました。特集では、平成22年4月から城ヶ丘保育園（当時）が指定管理者制度を導入するに当たり、制度の趣旨や導入までの過程、保護者の方々から寄せられた質問と、その回答を取り上げました。

11月1日
から

より便利に、より多くの方に、 「広報えな」ウェブ配信をスタート

広報紙配信サービス「マイ広報紙」

広報紙データを収集し、インターネットで無料配信するサービスです。パソコンやスマートフォンで、いつでもどこでも広報えなを読むことができます。

利用方法

お使いのパソコンやスマートフォンなどで、マイ広報紙の専用ウェブサイト (<https://mykoho.jp/>) にアクセスしてください。「広報紙・記事をさがす」から「広報えな」を検索してください。



マイ広報紙の便利な機能

- 記事ごとに広報を読むことができます。
 - 特定のキーワードで検索すると、関連する記事を一覧でまとめて読むことができます。
 - 事前にユーザ登録しておく、読みたい広報紙（自治体）やカテゴリの記事をマイページで見ることができます。
 - 面白い記事や気になった記事を SNS で共有できます。
- ※通信料は利用者負担となります

広報紙配信アプリ「マチイロ」

このアプリをダウンロードすると、毎月スマートフォンやタブレットに最新の広報えなが届き、いつでもどこでも読むことができます。

アプリのダウンロード方法

お使いの端末により App Store または Google Play で「マチイロ」と検索し、アプリをダウンロードしてください。下記の QR コードからもダウンロード画面に移動できます。



マチイロの便利な機能

- 一度ダウンロードした広報紙は、通信なしでいつでも読むことができます。
 - 指先で操作するだけで、ページめくり、拡大縮小が容易にできます。
 - 最新号の広報が発行されると、プッシュ通知でお知らせが届きます。
 - 記事の気になる部分の範囲を指定して切り抜き、画像として保存できます。切り抜いた画像は SNS で共有できます。
- ※アプリは無料ダウンロードできますが、通信料は利用者負担となります
※アプリ内に広告が表示されます。この広告はアプリ運営のためのもので、恵那市が責任を負うものではありません

意見募集

皆さんの声をお寄せください

今回お知らせした広報えなのリニューアルについて、皆さんの意見や提案を募集します。新しい広報えなは、市民の皆さんの意見を反映させながら、作って行きたいと考えています。よりよい紙面づくりに努めてまいりますので、協力をよろしくお願いいたします。

○発行回数 ○新コーナーの提案 ○文字や写真、ページの量 ○アプリなど新しい情報手段 など

□提出方法 表題を「広報えなへの意見」とし、郵便かファクス、電子メールで①住所②氏名③連絡先を明記の上、提出する。

□締め切り 11月30日(木) (消印有効)

□提出先 〒509-7292 (住所不要) 総務課広報広聴係 ☎26-6150 ✉info@city.ena.lg.jp

☎ 総務課 (内線 322)

平成30年4月から「広報えな」の発行が、 月2回から月1回になります！

もっと分かりやすく！
もっと伝わる！
もっとつながる！

「広報えな」を目指します

広報えなりリニューアルのポイント

市では、情報をより効果的に発信し、誰もが市からの情報を便利に受け取れる環境づくりに取り組んでいます。広報えなは皆さんに情報をお届けする大切な手段です。今後も継続して情報をお届けできるよう、平成30年4月号から、広報えなをリニューアルします。

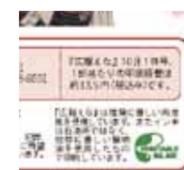
月1回の発行に集約。配布負担とコストを減らす

現在、広報えなは1日号と15日号の月2回、年間で23回（12月15日号は1月1日号と合併号）発行しています。

自治会を通じて各世帯へ配布していますが、月2回の配布は負担が大きいとの意見が寄せられていました。配布の負担を減らすために、月1回の発行にします。

広報えなは、市民の皆さんの税金から作られています。発行回数を減らし、印刷費用や配布費用のコスト削減につながります。情報を集約することで、1号あたりのページ数は、これまでよりも増える見込みです。掲載する情報を精査し、フルカラーのページと2色

刷りのページを、バランス良く混ぜることで経費を抑えます。



裏たおまは15日号で、印刷費を削減し、10月1日号は13.5円、10月15日号は8.2円でした。

発行回数は減りますが、市からの情報は大幅に減ることがないよう、情報の質や量を確保するよう努めます。併せてウェブサイトによる情報提供の充実と強化に取り組めます。スマートフォンなどを活用した新しい情報提供の手段も導入し、より多くの方に情報が届く環境を整えます。

デザインを一新。より見やすく伝わる広報に

分かりやすく読みやすい広報紙となるよう、デザインを一新します。広報紙の顔となる表紙は、目で楽しみ、手に取りたくなるようなデザインにします。写真やイラストを効果的に使い、読みやすい文字の種類の使用や見やすい配色を心掛けます。各コーナーのタイトルやインデックスなどは、統一感のあるデザインで、すっきりとした印象にします。

市の政策から生活情報まで、しっかりと伝える

市は市民の皆さんに、政策や課題、予算や決算、重点事業などを伝える責務があります。堅くなりすぎない内容を、分かりやすく読みやすいように工夫し、市の取り組みをしっかりと伝えます。

同時に、子育てや健康、防災など日頃の暮らしに関わる身近な情報も幅広く伝え、身近な広報紙を目指します。

市民の皆さんの活躍や、地域の出来事をもっと紹介

地域の話や市民の皆さんを紹介し、魅力を伝えます。子どもから高齢者まで、幅広い方々が登場し、読んでいて楽しい広報紙づくりを目指します。市内には地域の魅力を再発見してもらい、市外にはインターネットやアプリを使って魅力を発信します。



▲旬な人を紹介する輝く郷土は今号で157人目